

# ズームアップ

# 人

ずっと以前から  
市町村立病院で働いて、地域医療に  
携わりたいと思っていたんですよ



## 三浦 義明 国保西根病院副院長

●みうら・よしあき 昭和57年岩手医科大学卒業。同年岩手医科大学小児科に入局。59年には岩手医科大学第一内科に入局し、平成19年3月まで岩手医科大学付属病院に勤務。4月から国保西根病院副院長。今西進化論の今西錦司を尊敬する。趣味は読書で、年に300冊を読破するほどの読書家。「知恵と工夫で日々改善！」がモットーの49歳。両親と弟の4人家族。血液型A型のさそり座。釜石市出身。盛岡市在住。



## 週

に1度の出張診療。  
岩手医科大学付属  
病院からの応援と

して、国保西根病院に10年通  
い続けた。以前から、市町村立  
の病院で地域医療に携わりた  
いとの思いが強かったことに  
加えて、4代の院長にわたっ

て「いつかこの  
病院で働きたい  
んか」と誘いを  
受けたことで、  
地域医療の現場  
に身を投じる決  
心を固めた。  
西根病院では  
内科を担当する  
三浦副院長の専  
門は、肝臓病や  
生活習慣病。岩  
手医科大学付属  
病院を退職した  
今でも、毎週木  
曜日には非常勤講  
師として、肝臓  
疾患の指導・教  
育に行くほど。  
医療の現場で  
は、同じ治療を  
行っても人それ  
ぞれ効き目が違  
うという。患者  
の体調や環境を  
理解して、食事  
や運動の指導な

ども含め、その人に見合った  
治療を総合的にオーダーメー  
ドで行うことを基本にする。  
そのためにも、患者個人と直  
接向き合い、「真の言葉」を聞  
くことを大事にする。「自分  
の気持ちをあまり話してくれ  
ない人とも、心を開いて話し  
合うことで、少しでも近づき  
たいんです」。患者を第一に  
考えていることの表れだ。  
長生きは、健康に生きたく  
との結果なのだという。その  
ためには、まず自分の体と健  
康に関心を持ってもらうこと  
が基本だと考える。治療や指  
導を受けて健康になれば、そ  
れが自然に継続され、長生き  
をする。「病院がすることは、  
そのためのきつかけづくり」  
と語る。  
地域や職員と協力して、よ  
り良い病院にするため、さら  
なる意欲を燃やす。今後は「病  
院と保健、介護、福祉が一体と  
なって、地域の皆さんの健康  
維持・増進や病気の予防・治  
療を行うような組織づくりを  
したいですね」と将来を見据  
え、目を輝かせる。  
「岩手山を見てみると、何で  
もうまくいきそうな気分にな  
りますよ」そう語る三浦副院  
長は、今日も穏やかな笑顔で  
患者の言葉に耳を傾ける。